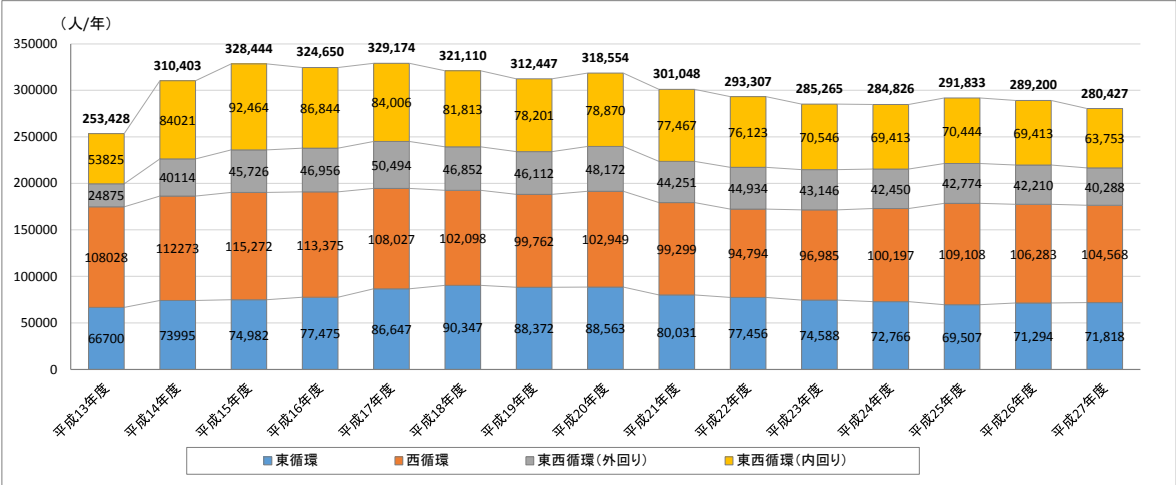


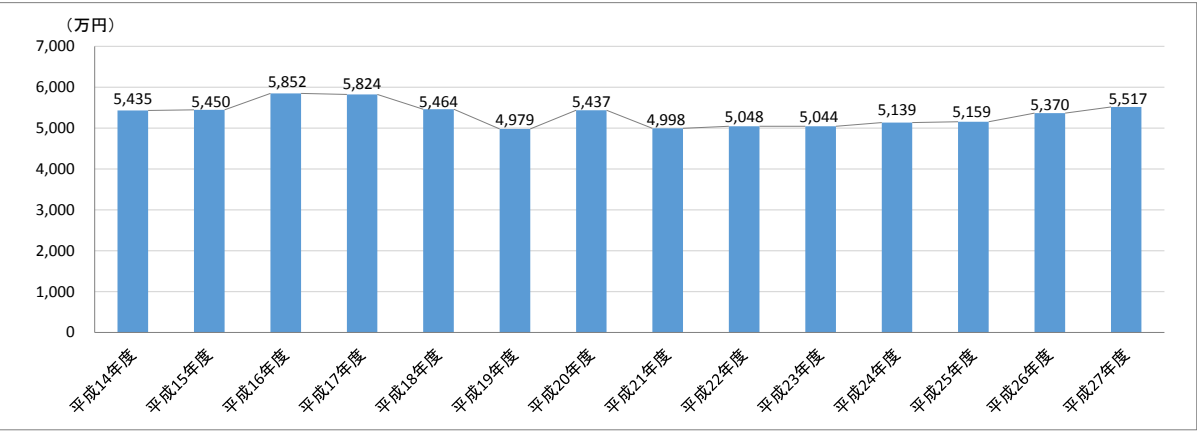
■桶川市内循環バス「べにばなGO」の現状(再確認)

導入の背景	交通空白地帯の解消、高齢者等移動制約者の移動手段を確保すること等を目的に、平成１２年度に試行運行を開始し、平成１３年４月から桶川市内循環バス「べにばなGO」の本格運行を開始。運行開始から、市民の方々をはじめ、非常に多くの方々の利用をいただいております、平成２７年度末には、述べ４６０万人の利用者数を記録した。
人口、面積	人口：75,266 人（H29.1.1 現在、高齢化率 27.69%）、面積：25.35 k㎡
導入時期	平成１３年４月～
運行エリア	市内全域
利用者	制限なし
乗降場所	停留所（１４０箇所）
運行日	運休日なし（３６５日運行）
運行時間	６時５５分～２１時 ００ 分
予約受付	予約不要
運賃	循環バス：１００ 円 ※障がい者等は無料
運行車両	小型バス３台（東循環、東西循環（内・外回り）、中型バス １ 台（西循環）
運行事業者	㈱協同バス（東循環、東西循環（内・外回り） 川越観光自動車㈱（西循環）
利用実績	循環バス：利用者数 H28 209,137 人 （12 末：昨年同時期▲3,961 人） H27 280,427 人 H26 289,200 人 委託料 H28 56,900,000 円（予算額） H27 55,166,026 円 H26 53,699,575 円 利用者 1 人当り行政負担額 H27 196.7 円/人 H26 185.7 円/人
交通事業者等への影響	導入時における市内の交通事業者には、ある程度の影響が考えられたが、その目的を理解いただき運行を行っている。
課題	第 1 回会議でまとめた課題 ・自家用車に依存しない市民の移動の足の確保 ・ルート・運行形態の改善 ・利用しやすい環境整備による利用促進 ・他の公共交通機関との連携 ・市財政負担の軽減
その他	圏央道、上尾道路の開通等により、運行当初より市内の交通環境が大きく変わっている。

●利用者数



●行政負担額



【参考】埼玉県内で運行中のコミュニティバス等の利用者数及び収支率等の比較
(平成 24 年度実績、埼玉県調査資料)

- 埼玉県内では平成 27 年 6 月 1 日現在、63 市町村中 44 市町村（約 70%）でコミュニティバス等を運行している。（埼玉県調査時の平成 24 年時点では、29 市町村が運行していた）
- 年間利用者数は、鴻巣市、上尾市、川越市の順で多く、桶川市は 9 番目となっているが、人口当たり 1 日平均利用者数割合は、桶川市が上位 2 番目と人口規模と比較して、利用率が高いことが伺える。
- 収支率は、鶴ヶ島市、富士見市、鴻巣市の順で高く、桶川市は 5 番目となっている。

【収支率・上位 3 位自治体の想定される背景・要因】

《鶴ヶ島市》

- 平成 8 年 5 月から鶴ヶ島市内循環バスとして運行を開始し、平成 22 年 2 月から鶴ヶ島市民バス（つるバス）と鶴ヶ島市乗合タクシー（つるワゴン）に再編された。
- 年間利用者数は約 21 万人と、10 番目となっているが、収支率は 45.4%と高い（運賃：200 円）。

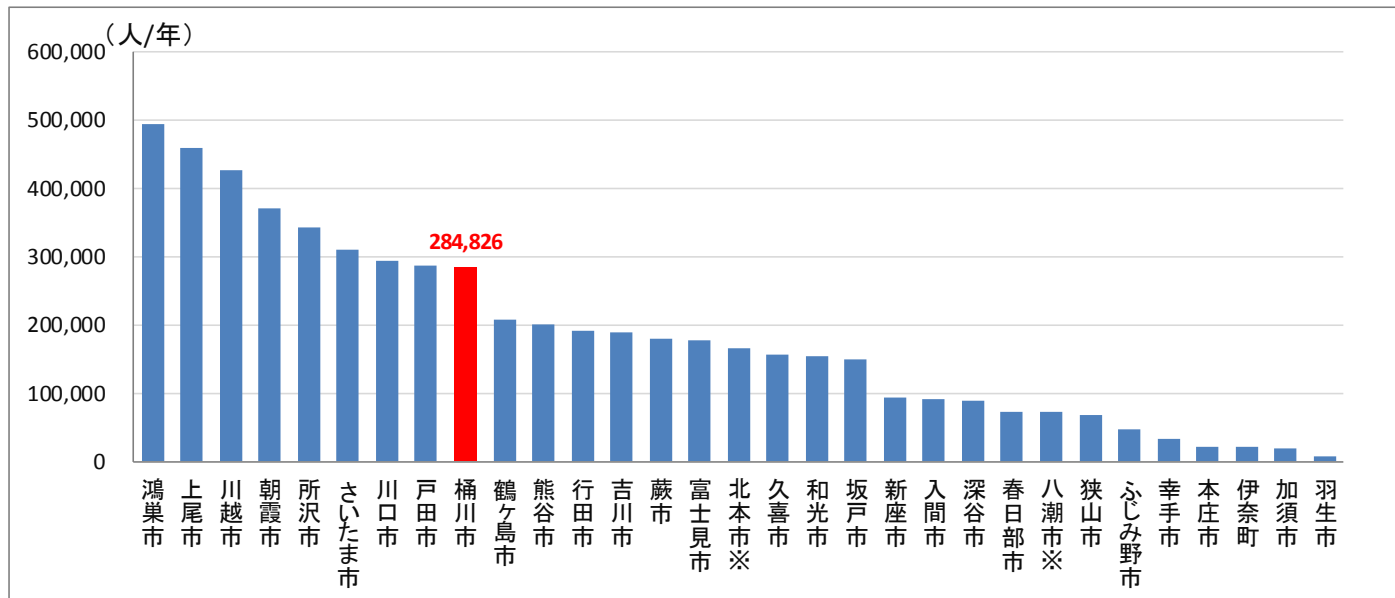
《富士見市》

- 平成 9 年 1 月から富士見市内循環バス（愛称：ふれあい号）として運行を開始し、その後ルート再編やダイヤ改正等を実施。
- 年間利用者数は約 18 万人と、15 番目となっているが、収支率は 41.6%と高い（運賃：170 円）。

《鴻巣市》

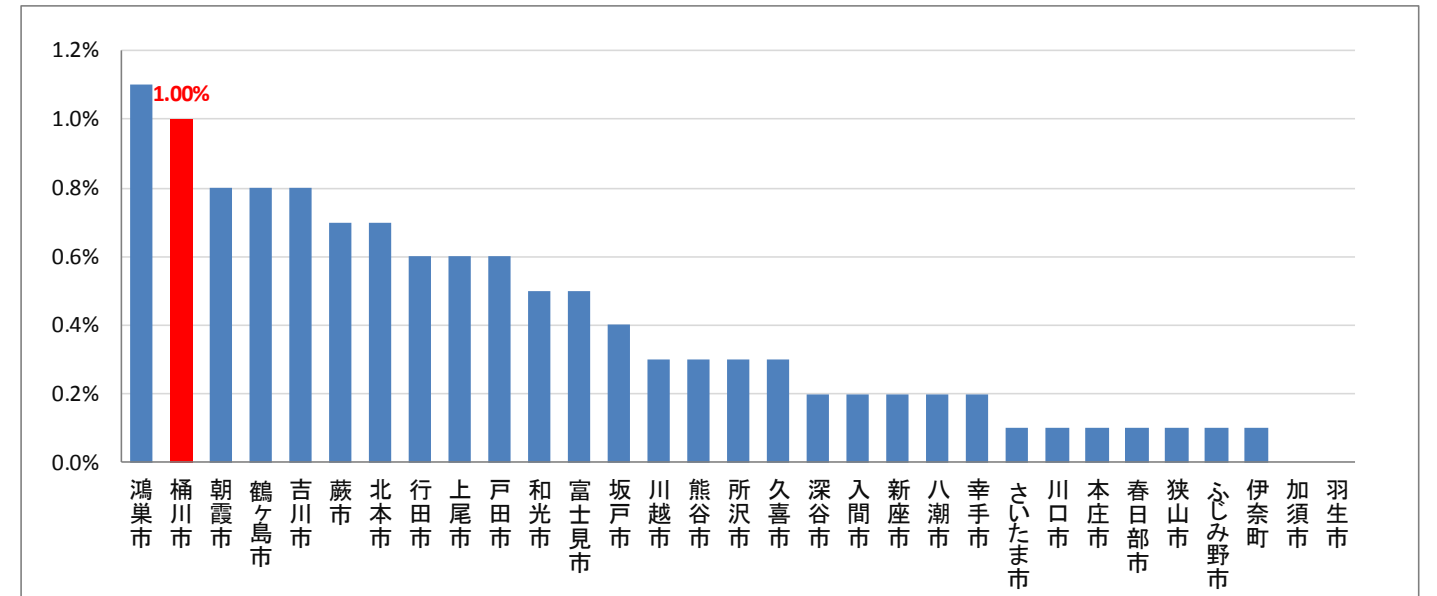
- 平成 14 年 1 月から路線バスの廃止代替として運行を開始し、ルート再編やダイヤ改正等を実施。
- 年間利用者数は約 50 万人と最も多く、収支率は 40.1%と高い（運賃：150 円）。

■年間利用者数による比較



※北本市、八潮市は路線バスへの補助金

■人口当たり 1 日平均利用者数割合による比較



■収支率（運行収入/運行経費）による比較

